

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100099		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街焼津		
所在地	静岡県焼津市石津188		
自己評価作成日	平成27年12月22日	評価結果市町村受理日	平成28年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&Jigvovocd=2295100099-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が季節を感じいつも笑顔でいられるよう、また毎日安心して暮らしていけるような環境しながら、利用者様の思いを大切にサービスをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

折り紙の鬼が節分行事への楽しみを膨らめ、洗面台の金盞花からは戸外の冷たさがしのばれる共用空間には職員の細やかな心遣いが広がります。日中での入浴に抵抗があった人には「生活リズムを守ってあげたい」との想いを以て19時過ぎと叶い、洗濯干しとタタミを居室でおこなうことで「服がなくなる」という利用者の安堵につなげた例や夜米を研いだか気になってしまう人には実際にやってもらうことで安寧を取り戻したというケースもあります。受診支援を近親者をお願いすることで日頃の家族外出がスムーズに展開し、また名古屋に住む孫が音楽仲間を引連れてオカリナやギター演奏に訪れてくれる温かでオープンな事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が安心して、生活できるようにスタッフみんなで考えた理念(笑顔が絶えない)を、フロアに掲示して、利用者様一人一人の思いを大切にしながら、実践につなげている。	「笑顔の絶えない」という理念は「ただ楽しくあれば良い」という考えではなく、「心地よい環境づくり」や「利用者との関係性にも着目して暮らしやすい支援」を心掛け、月に1回のミーティングで振り返る場もあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている行事(お祭り・清掃活動・避難訓練等)に参加して地域と交流をしている。利用者様なるべく地域の方たちと触れ合いが出来るように、近くのスーパーまで歩いて出かけるようにしています。	地域の清掃活動や防災訓練に利用者とともに向かっています。参加の一人は車いす利用だったため、在宅介護の皆さんに「車いすを使った避難もいいかも」との気づきとなる貴重な出来事もありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の方の対応等を話し合っています。また、地域への行事にもなるべく参加し、理解を得られるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催している。自治会役員・民生委員・市役所・地域包括支援センター職員・家族代表者等の参加があり現状報告や活動報告を行ったり、意見交換等を行っています。	運営推進会議には民生委員が常時3~4名出席してくれます。南部地域包括支援センター主催の「ラン伴、では障がい者や認知症患者への理解を以て民生委員が回覧板でのチラシ配布に協力くださっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の方が、運営推進会議に参加してくれているので、情報交換ができています。また、分からないことはその都度、電話等で相談にのってもらっています。	運営推進会議の議事録は直接市窓口へ届け、四半期毎の市長寿福祉課主導の連絡会では情報交換に努めています。隔月訪問の介護相談員は毎回書面で報告をあげてくれるため、連携がとれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を行い、拘束をしないケア方法を常に検討し、実践していますが、グループホームは2階に立地しており、入口付近に階段があるので、危険防止のため施錠はしています。	玄関はありませんが、ユニット入口は階段があることでタッチ式ロックが常時あり、「1階に~」という場合には職員が付き添い制止したりはしていません。例えば急に立ち上がったとき「ちょっと待って」と言わないよう、業務を代わり合うことも職員に定着しています。	ユニット入口の施錠について閉塞感や抑制が今後起きないように定期的に職員間で話し合い、意識が継続することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時の勉強会にて学ぶようにし、虐待防止に努めている。また、常にご利用者様の身体の観察を行い、早期の異常発見に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員で学ぶ機会はないが、学んだ者がミーティング等で伝えるようにはしている。また今現在、後見人制度を利用されている利用者様がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い理解を得られるよう努力している。また、不安や疑問点があれば後日でも、その都度伺うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時等に、その都度意見を伺うようにしており、申し送りノートへも記載し、共有しています。	家族には出席の有無に関らず運営推進会議の案内と議事録を郵送しています。退院に際して経過が心配という家族とともに支援したエピソードや、家族アンケートのほぼ全てに記述があることから親和が伝わります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案はその都度聞き、反映するようにしている。月に1度ミーティングも開いており、話し合いを行っている。	個人面談は無いものの、常日頃から何かあれば言える雰囲気づくりに努めています。職員間の利用者への協議は活発で、洗濯干しとタタミを居室でおこない「服がなくなる」という利用者の安堵につなげた例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員に声を掛け、働きやすい職場環境を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で行われる施設研修に参加して、研修を受けた職員が講師になり、他の職員に講義を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度、市内でグループホームの連絡会があるので参加し、意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設利用前に本人と面談をして、困っていること・不安な事を聞きながら、利用者様が安心して生活出来るように、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用前に家族と面談をして、今の現状・不安な事・要望等を聞き、サービスを開始する。施設での生活の様子を家族に連絡して、家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族に合って良く話し合いを行い、施設内にてCMも含め、今後の支援について検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は一緒に行い、意欲を持った生活をして頂けるよう、コミュニケーションを取りながら信頼関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えた時や、お便りで様子を伝え、情報を共有するようにしている。また、必要に応じて電話にて報告・意見を聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には、面会や外出する機会を多く持って頂けるようお願いしている。知人等にも気軽に来て頂けるようにご家族に伝えていきます。	行きつけの美容院に今でも通う人もいます。家族だけでなく近所だった人の訪問もあり、レクリエーションでは一緒にゲームに混じって盛り上げてくださったり、仕事帰りに立ち寄る家族は添い寝までしていただけます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の間に入り、うまくコミュニケーションがとれるように支援しています。レク等も皆で出来るように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の近況を電話等で確認している。相談等があれば、何うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、希望・意向の把握に努めています。ご本人から聞き取りが困難な場合は、ご家族も交えて検討しています。	就寝前の着替えや入浴等1対1になれる時間を好機として「何か聞けるかな」との姿勢で向かっています。夜米を研いだか気になってしまう利用者には実際にやってもらうことで安寧を取り戻したというケースもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から情報を得て、把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションを取りながら、日々バイタチェックし、体操や入浴介助しながら身体観察を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とは難しいが、ご家族の意向を参考にしカンファレンスを行い、その都度職員間で話し合い作成しています。	担当制を敷き当人がモニタリング表に記載することで責任もった内容となり、また毎月行うため利用者の些細な変化を見落とさない観察力にも効果をもたらしています。ケアマネージャーは併設事業所との兼務です。	家族も加わったサービス担当者会議がおこなわれていくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の経過記録の記入は毎日実践しており、身体状態・行動に異変があれば、その都度記入し、申し送り時にも報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様のニーズに合わせて、出来るだけの柔軟な支援やサービスが出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事に参加したり、傾聴ボランティアさんの方に、月1回来てもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診を、なるべくご家族にお願いしています。医師への質問等があればご家族へ伝え、必要があれば同行もしています。現在、往診の方は、2名います。	かかりつけ医継続は7名で、これまで診てもらっていた医師にお願いできていることで、利用者だけでなく家族も安心できています。受診は家族がおこない、医師とのやりとりは手紙や電話とケースバイケースです。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間では申し送りをし、申し送りノートにも記載し共有しています。また、必要に応じて受診をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先には、詳しい情報を提供するように努めています。退院に際しては、病院関係者・ご家族・職員と相談し、ご利用者様にとって一番いい方法を考えながら行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度、ご家族と話し合い、ご利用者様・ご家族の意向に添えるように努力しています。	看取りの体制は整っており、ターミナル期に入る前には医師も変更するよう取計っています。契約では延命に関する書面で家族に説明していますが、実際は気持ちが変わることもあるため、話し合う時間を丁寧にもつことを旨とし最善の方法を探しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時に話し合ったり、実際に看護師指導で、マッサージの訓練を行ったり、施設研修等で行う救命講習等にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に施設内で訓練を行っており、地域の避難訓練にも参加しています。	本年度の法定訓練はあと1回を残しています。避難経路を非常階段とするか、また常の階段とするかは利用者の症状や身体状態で職員が見極めているとの例からは、現状に即した訓練があることが見えます。	地域へはいざという時には助けてもらえるよう周知を図っているとのことでしたが、訓練に参加してもらおうといった具体的な関係構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートなことに関しては、なるべく耳元で話すようにしている。無理強いする事無く、出来る事はやっていたくようにしています。	法人研修で学び、特に挨拶を重視しています。「出勤していきなり話しかけないでください。まずは挨拶から～」と管理者が日々指導しています。体操の時間に独り新聞を読む人もいて、本人本位の様子を視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをしっかりと取り、利用者様の思いを大切にしながら、自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせられるように努力しています。外出・散歩・体操・レクなどの際はご本人の意向を聞き、無理のないように行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、朝は洗面所にブラシを用意して、ご自分で鏡を見ながらブラッシングしてもらっています。洋服もご本人とその日の気分に合わせて決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に出掛け、おやつを買ったり、料理本を一緒に見ながらメニューを考えたり、畑で作った野菜と一緒に収穫し、皮むき等してもらったり、テーブル拭き・食器拭きなど、出来る事を手伝ってもらっています。	業者からメニューと食材が届くため、利用者の好みの食事を「お楽しみメニュー」の日を設けて提供するほか、畑のきゅうりが酢の物として1品追加されることもあります。エプロンと三角巾で台所に立つ利用者もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く摂取出来るように配慮しています。食事量・水分量を一覧にて確認できるようにし、対応しています。体調が良くない時は、お粥にしたり、水分等にも、とろみをつけて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを実施。口腔ケア時、出来るところまでご自分でやって頂き、その後は確認しながら行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄一覧表をチェックし、早めの声掛けを行い誘導しています。全介助の方も、職員2人介助で日中は、トイレ誘導しています。	夜間の紙オムツ使用はあっても昼間は布パンツ5名、リハビリパンツ3名と、チェック及びパターン把握で状態を維持しています。入院で尿意を失った人も離床時間を多めに取るなどした結果、再び戻った例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量の把握・排泄チェックを行い、リハビリ体操や散歩にて身体を動かすようにしている。また、毎朝ヨーグルト・日中はヤクルトも提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、職員がチェック表を見て2・3日おきに入浴できるように支援しています。夜の19時半頃希望の利用者様にも対応しながら、入浴剤も入れて気持ち良く入ってもらえるようにしています。	足し湯のため最初入る人に浴剤を選んでもらい、温度計で湯温に配慮しています。日中の風呂に心理面で抵抗があった利用者には「生活リズムを守ってあげたい」職員の尽力によって19時過ぎに叶っています。	足し湯については家族の意向確認も含み、入れ替えと経済的にどれほど異なるかも調べてみての検討を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も自由に休めるようにし、また夜間も一人ひとりの生活習慣に合わせ、照明・室温等にも気を付け、ゆっくり安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイルを作成し、職員がいつでも確認できるようにしている。受診の方で、薬の変更時は送りノートにも記載し、職員にも確認するように伝えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食前・後の準備や片づけ、食材の買い出しや、洗濯干し・たたみ等一人ひとりに合った役割が提供出来るようにしています。また、おやつを一緒に作ったり、散歩に出掛けたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望で、かっぱ寿司に出掛けたり、季節に応じて夏は外でイベントをやったりしている。	好天での玄関先ベンチで寛ぐ外気浴は歌好きも相まって皆で大合唱することもあります。体調がよくない人は別として全員外出で、近くの公園で弁当やおやつ付のミニ遠足も定番となりつつあります。ひ孫の誕生に病院まで連れ出してくれるなど、家族も協力的です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、買い物に出掛け本人の希望する物を買ひ、お金を払う支援をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話はかける事が出来ます。プライバシーを守る為に部屋を提供するようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテレビの位置を、ご利用者様が利用しやすいように工夫し、居心地の良い空間作りに努めています。また、季節を感じられるような掲示物を飾ったり、朝は窓を開け、外の空気を取り入れたり、夏は日差しが眩しくないように、少しカーテンを閉めたりしています。	2階のため採光が豊かで、冬季の体操は窓の近くでおこなうほどです。折り紙でつくった愛らしい鬼が節分行事への愉しみを膨らめ、洗面台の金盞花からは戸外の冷たさもしのばれ、職員の細やかな心遣いが伝わります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は自由に好きな場所で過ごして頂けるように、特に場所を決めず、また一人でも休めるような色々な空間を活用し工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、今まで使っていた家具・寝具等を用意していただき、居心地良く安心して過ごせるよう配慮しています。	家族には「枕や布団も使っていたものを～」と説明しており、入居当初から昔からいたように暮らす人が多く居ます。一人用のソファと小さなテーブルを持ち込み、朝は決まってそこで新聞を読む男性利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限りご本人の意思を尊重し、できる事はなるべくご自分でやって頂けるように、支援しています。		